

F—14 農村主婦の余暇時間とその利用

お茶の水女大家政 鈴木 敏子

1. 労働時間が短縮された今日においても、依然として農家主婦の過重労働と家庭生活への影響が問題にされる。そこで、労働生活の裏の余暇生活の実態を把握し、農家主婦の望ましい生活時間構造を考える手掛りを得たい。

2. 調査方法：質問紙調査法

調査対象：新潟県南蒲原郡中之島村の主婦

調査時期：昭和43年7月下旬～8月上旬，9月中旬（稲刈期），11月下旬の3回

7月203名，9月120名，11月174名を時期別，年代別に分析した。

3. 1日平均余暇時間は7月，11月において年代が高くなるごとに増加し，20代と50代の差は100分以上もあった。9月は1時間内外という非常に少ない余暇時間で年代差も小さく，収穫期の忙しさを反映している。どの年代も9月，7月，11月の順に多く，低い年代ほど季節差は小さい。また余暇は夜間に一番多い。そして余暇時間の少ない時期や年代ほど満足感は低い。しかも都市主婦の余暇時間の1/3～1/2にすぎず，不満感も強い。

余暇利用は「テレビ」「休養」「新聞」が代表的なもので，趣味的活動はごくわずかであった。注目すべきは農協婦人部活動（講習会や旅行等）への参加が多いこと，「家事」「子供の世話」「入浴」という項目もあがったことである。